愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	社会的養護		
担当者(Instructors)	伊藤 龍仁	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

社会的養育の役割と機能、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の意義と歴史的変遷及び、その基本原理と現状を把握する。また、社会的養護の制度や実施体系、対象、施設養護と家庭養護、社会的養護における領域の概要及び関係する専門職等を理解する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	各回テーマごとに実施する授業に加え、２回の小テストと課題レポートの提出を求める。授業の実施方法は原則対面で行うが、社会状況並びに学習効果を高めるために一部をオンラインで実施する。①テーマごとに設定する3分thinkingに取り組む、②対面並びに配信動画の視聴による講義の受講、③テキスト該当ページを精読して理解、④アウトプット・ノートを作成して課題提出、⑤疑問点等はプラットフォームから質問、という一連の流れで構成される。提出課題への添削及び返却、質問に対してはオンライン・プラットフォームの活用を図る。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	科目オリエンテーション 社会的養護とは何か	社会的養護の授業を受ける上でのオリエンテーションを行う。特に、事前事後学習の方法や施設等の見学・ボランティア活動並びに実習活動等を説明する。	□
第2回	社会的養護の基本原理	私的養育と社会的養育、児童養護と社会的養護の考え方を整理しながら、施設養護と家庭養護に分かれる社会的養護の構成と基本原理を理解する。	□
第3回	社会的養護の現状	約45000名といわれる要保護児童が利用している社会的養護の現状を概観し、児童養護問題の本質を理解する。	□
第4回	社会的養護の歴史①近代までの歴史と岡山孤児院	わが国の社会的養護の起源と近代までの歴史を概観する中で、特に岡山孤児院における先駆的な社会的養護実践を紹介する。	□
第5回	社会的養護の歴史②戦後史とホスピタリズム論争	社会的養護の現代史の変遷を概観するとともに、戦後の社会的養護のあり方を左右したホスピタリズム論争を取り上げ、家庭的養護の推進が求められている現状を理解する。	□
第6回	子どもの権利擁護	社会的養護の理念を踏まえ、子どもの権利保障と社会的養護についての関係性、関連する政策等について学ぶ。	□
第7回	施設養護の体系と実践	社会的養護の体系を構成する法律、児童福祉施設を中心としたサービス体系、施設養護の過程及び基本的な実践内容を把握する。	□
第8回	前半のまとめと小テスト	前半のまとめと補足説明をして小テストを実施する。	□
第9回	社会的養護の領域と概要（1）乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設	養護系施設から乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設を取り上げる。	□
第10回	社会的養護の領域と概要（1）児童心理治療施設、児童自立支援施設、自立援助ホーム	養護系施設から児童心理治療施設、児童自立支援施設、自立援助ホームを取り上げる。	□
第11回	社会的養護の領域と概要（2）家庭養護	里親制度とファミリーホームの現状と課題を取り上げる。	□
第12回	社会的養護の領域と概要（3）障害系施設	障害児入所施設と児童発達支援センターを取り上げる。	□
第13回	社会的養護に関わる専門職・専門機関と倫理	施設における多様な専門職に加え、里親・ファミリーホーム養育者等の非専門的マンパワーの現状と課題など、社会的養護の担い手と倫理について理解する。	□
第14回	社会的養護とソーシャルワーク 施設の運営管理	社会的養護におけるソーシャルワーク実践のポイントと施設の運営管理、施設の権利擁護等を取り上げる。	□

第15回	全体のまとめと小テスト	全体のまとめと補足説明をして小テストを実施する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

授業テーマに該当するテキストの3分thinkingに取り組みノートにまとめるとともに、テキストを概読して関連資料を収集するなどの事前学習を２時間程度行う。 授業後には使用した配布資料・シート・小テスト等はすべてポートフォリオに整理するとともに学習の要点をアウトプット・ノートに整理する事後学習を２時間程度行う。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出課題とするアウトプット・ノートを添削してコメントを記入するとともに採点して返却する。小テストは採点後に返却し、模範解答を開示する。授業時間内の対応とオンライン・プラットフォームを活用してフィードバックを図る。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	社会的養護の学びを通して小学校教員・幼稚園教員・保育士になるための資格に必須の知識と基礎的・実践的な技能を身につけることができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	社会的養護の学びを通して現代の福祉・教育現場に存在する多様な問題や課題に正面から向き合うことのできる力強い思考力・判断力を習得できる。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	社会的養護の学びを通して小学校・幼稚園・児童福祉施設等での教育・養護・保育に主体的協働的に携わることができる幅広い人間力を体得できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

提出課題、課題レポート、参加姿勢から総合的に評価する

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	『みらい×子どもの福祉ブックス　社会的養護Ⅰ』（株）みらい	9784860154981
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	『保育福祉小六法』（株）みらい	9784860155421
2		
3		
4		
5		